

いじめ対応マニュアル

平成29年8月
杉並区教育委員会

目 次

1	いじめに対する基本的な認識等	1
2	いじめを未然防止するために	3
3	いじめを早期発見するために	5
4	いじめの発見から解決までの対応 ※参考資料あり	7
5	いじめの重大事態への対応	13

1 いじめに対する基本的な認識等

(1) いじめの定義

「杉並区いじめ防止対策推進基本方針」では、いじめ防止対策推進法第2条第1項の規定を踏まえ、以下のとおり、いじめを定義している。

【いじめの定義】

児童・生徒に対して、当該児童・生徒が在籍する学校に在籍している等、当該児童・生徒と一定の人的関係にある他の児童・生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童・生徒が心身の苦痛を感じているものを言う。

※ 「一定の人間関係」とは、学校の内外を問わず、同じ学校・学級や部活動の児童・生徒や、塾やスポーツクラブ等、当該児童・生徒がかかわっている仲間や集団（グループ）など、当該児童・生徒と何らかの人的関係を指す。

※ 「物理的な影響」とは、身体的な影響のほか、金品をたかられたり、隠されたり、嫌なことを無理矢理させられたりすることなどを意味する。けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童・生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとする。

(2) いじめの態様

具体的ないじめの態様は、以下のようなものがある。

【いじめの態様】

- ・ 冷やかしたりからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- ・ 仲間外れ、集団から無視される
- ・ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする
- ・ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする
- ・ 金品をたかられる
- ・ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする
- ・ 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする
- ・ パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等

～いじめに対する留意点～

- 児童・生徒同士が対等な関係ではなく、いじめられる者に精神的な苦痛を感じさせている。
- 心理的、身体的に苦痛を伴う攻撃を加える、この苦痛の程度は受ける者によって異なる。
- いじめには、観衆（はやし立てる、面白がってみる等）、傍観者（見て見ぬふりをする等）がいる場合がある。

(3) いじめ防止対策の基本的な視点

いじめは、いじめを受けた児童・生徒の人権や教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある、絶対に許されない行為である。

【いじめ防止対策の基本的な視点】

- ① **いじめを単なるけんかやトラブルとして受け止めず、人権侵害、差別の問題として受け止める。**
 - ※ 人間関係を破壊したり、人間形成を阻害したりするもので、時には生命の危機にも関わる重大な問題であると受け止める。
- ② **「いじめを受けている側にも問題がある」という見方をしない。**
 - ※ このような見方は被害者の人格を否定し、被害者救済を妨げるものであり、いじめを許容することになる。
- ③ **いじめであるか否かは、いじめを受けた者の受け止め方で判断する必要がある。**
 - ※ 「その程度で・・・」といった見方は、いじめを受けた者の心情をかえって傷つける。
- ④ **いじめを未然に防止することやいじめを早期に解消することは、児童・生徒の成長・発達にとって極めて重要な問題として受け止める必要がある。**
 - ※ 各学校では、全教職員の共通理解を図るとともに、保護者の理解と協力を得ながら、未然防止、解消等に全力を傾けなければならない。
- ⑤ **「いじめはどの学校でも、どの学級でも、どの児童・生徒にも起こりうるものである」という危機意識をもって対応する必要がある。**
 - ※ 自分の学校では、自分の学級では等、他人事として考えるのではなく、常にいつ自分の学校・学級で起きるかもしれないという危機意識をもっておく必要がある。
- ⑥ **いじめについては、被害を受けた児童・生徒や周囲の児童・生徒が、多くの場合その被害を相談していない実態を把握しておく必要がある。**
 - ※ 児童・生徒の全てが教員等に相談をしているわけではなく、相談していない実態があることを理解し、いじめを教員自らが発見する努力が必要である。
- ⑦ **いじめを傍観させないことを指導する必要がある。**
 - ※ いじめの傍観は、いじめ行為と同様に許される行為でないことを、児童・生徒たちに指導をしておく必要がある。
- ⑧ **いじめは解消後も注視する必要がある。**
 - ※ 一度起きたいじめは、いつ、どのような場面で、再発する可能性があるのか分からない。解消したとして安心するのではなく、引き続き（少なくとも3カ月程度）注視する必要がある。

2 いじめを未然防止するために

(1) いじめを許さない学校・学級づくり

いじめを許さない学校・学級づくりを進めるためには、以下の点を十分踏まえて対応を図る必要がある。

【いじめを許さない学校・学級づくりのポイント】

① いじめ問題には未然防止の視点で対応する

「いじめが発生してから対応する（事故対応）」のではなく、「いじめを生まない、許さない学校・学級風土をつくる（未然防止）」ことが必要である。すべての児童・生徒に健全な社会性を育み、「いじめは人間として絶対に許されない行為である」、「いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめと同様に許されない行為である」ことを定着させなければならない。

② 信頼関係の中にこそ、いじめの解決の糸口がある

日頃から、児童・生徒とのコミュニケーションを密にし、児童・生徒が教員等に何でも話せる、相談できる信頼関係を構築するとともに、「いじめを受けていることを大人に伝えることは正しい行為である」ことを、児童・生徒に認識させる。

③ 教育活動を通して児童・生徒の豊かな人間性の醸成を図る

教育活動を通して、児童・生徒に対して、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にできる態度を育成し、友情の尊さや生きることの素晴らしさなどについて、心からその価値を感じるように適切に指導する。

(2) いじめを未然防止するための手だて

いじめを未然防止するためには、以下の手だてを着実に講じていくことが重要である。

【いじめを未然防止するための手だて】

① 学級活動の充実

ア 教師は児童・生徒に対し、共感し受け入れる態度を示すことにより、児童・生徒一人ひとりのよさが発揮され、国籍や障害等による差別意識をもたず、互いを認め合うことのできる学級づくりを進める。

イ 児童・生徒の自主的活動を保証し、規律と活気のある学級づくりを進める。

ウ 正しい言葉遣いができる学級集団を育てる。

※ いじめのきっかけは言葉によるものが大半であるため、人権意識を欠いた言葉遣いには適宜指導を行う。

(例)「キモイ」「ウザイ」「死ね」「殺す」等

エ 年度当初に学級でルールや規範を定め、児童・生徒がこれらのルールや規範を守れるように年間を通じて継続的に指導を行う。また、これらのルールや規範の改善に向けて、毅然とした粘り強い指導の徹底を図ることも重要である。

オ 定期的に行う生活アンケートや各学力調査における質問紙調査の結果、児童・生徒の出欠状況や遅刻・早退の回数、普段と異なる表情や体調不良等から実態を把握し、児童・生徒の心の変化を素早くつかみ、早期対応につなげる。

カ 学級担任として、自らの学級経営の在り方を定期的に見直し、先の見通しをもって進める。

② 授業中における児童・生徒指導の充実

ア 「自己決定」「自己存在感」「共感的な人間関係」のある授業づくりを進める。

イ 「楽しい授業」「分かる授業」を通して児童・生徒たちの学びを保証する。

ウ 発言や集団へのかかわりに消極的な児童・生徒に対して、教師が適切に支援し、達成感や連帯感、自己肯定感がもてるよう配慮する。

エ 自らの授業づくりの在り方を定期的に見直し、先の見通しをもって進める。

③ 道徳授業の充実

自他を尊重する態度、人権を守る態度の育成など、いじめ防止に関わりのある教材を取り入れた指導計画に基づいて、いじめを許さない心情を育てる授業を工夫する。

④ 学校行事の工夫

児童・生徒が、達成感や自己有用感、感動、人間関係の深化を得られるような企画や工夫を行う。

⑤ その他

ア 児童・生徒が主体となって、自らいじめ問題の予防と解決に取り組めるよう、児童会・生徒会活動の活性化を図る。

イ 6月、11月、2月に実施する「ふれあい（いじめ防止強化）月間」（東京都）や5・6月、9・10月に実施する「いのちの教育月間」（杉並区）等を活用し、学校全体や学年・学級単位で生命や人権を尊重する取組、いじめ防止に向けた取組の推進を図る。

ウ ソーシャル・ネットワーキング・サービスやインターネット等を通じて、意図的または無自覚にいじめの加害者や被害者になるケースがある。道徳、学級活動等の中で関連性をもたせながら、情報モラル教育に取り組む。

エ 発達障害を含む、障害のある児童・生徒や、海外から帰国した児童・生徒や外国人の児童・生徒、国際結婚の保護者をもつなどの外国につながる児童・生徒、性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童・生徒、東日本大震災により被災した児童・生徒又は原子力発電所事故により避難している児童・生徒を含め、学校として特に配慮が必要な児童・生徒については、日常的に、当該児童・生徒の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童・生徒に対する必要な指導を組織的に行い、いじめの未然防止・早期発見に取り組む。

3 いじめを早期発見するために

(1) 児童・生徒のサインを見逃さない

いじめは発見しにくいもの、発見されにくいものであると認識し、日頃から児童・生徒を注意深く観察する必要がある。また、日常の行動や生活の様子から、ちょっとした変化を見逃さないように努め、特にいじめられる側の児童・生徒のサインを決して見落としてはならない。

※資料編「(2) 発達段階によるいじめの特徴」「(3) いじめ発見チェックリスト」を参照

【児童・生徒のサインを受け止める際の心構え】

- ・ いじめられる側の児童・生徒は、いじめをしているとの自覚がなく、単なる遊びのような気持ちでいることも多い。
- ・ いじめは、隠れたところで行われる。
- ・ いじめられる側の児童・生徒は、いじめの被害を訴えにくい心理状況にある。

(2) いじめを早期発見するための手だて

いじめを早期発見するためには、以下の手だてを適切に実施していく必要がある。

【いじめの早期発見のポイント】

① 児童・生徒のきめ細やかな観察

休み時間や昼休み、放課後の雑談の機会に、気になる様子に目を配る。また、言動や服装等に普段と異なる様子が見られる場合には、教員から声を掛け様子を伺う。

② 複数の教職員による観察

ア 多くの教員が様々な教育活動を通して児童・生徒たちと関わることにより、発見の機会を多くする。(教科担当〈専科担当〉教員、部活動顧問の教員等)

イ 教室から職員室へ戻る経路を時々変えたり、トイレや特別教室付近などを確認したりすることも気になる場面の発見につながる。

ウ 教員がいない場所ほどいじめが起りやすいという認識のもとに、休み時間、昼休み、放課後の校内巡回を積極的に行うことも、発見を容易にする。

③ いじめアンケート調査の活用

ア 全児童・生徒に対するいじめアンケート等の調査を年3回以上実施する

イ アンケートの集計や分析には、担任を中心に複数の教員であたり、記述内容の分析などにはスクールカウンセラー等の専門的な立場からの助言を得ることも有効である。

ウ 児童・生徒の人間関係に変化が表れる時期(新年度や長期休業明け等)や、学年末でクラス替えに伴う人間関係上の不安を感じる時期に実施することも有効である。

④ 教育相談を通じた把握

ア 定期的な生活面談や進路面談を実施するとともに、児童・生徒が希望をする時には面談ができる体制を整えておく。

イ 面談方法や面接結果について、スクールカウンセラー等の専門的な立場から助言を得る。

⑤ 保護者や地域からの情報

学級内での人間関係のトラブルが潜在化し、いじめに発展しているケースがある。学内での発見が難しい場合もあるため、保護者や地域から情報を得られるよう常に風通しのよい関係を心掛ける。

⑥ いじめが疑われるときの対応

ア 注意深く見守り、速やかに他の教員に相談し、一人で抱え込まず、複数の目で判断する。

イ いつもと違う状態や行動の背景、児童・生徒同士の関係など、全体像を正しくつかむ。

ウ 指導を開始する時期を逸さない。速やかにいじめにかかわっている関係者から詳細な聞き取りを行う。

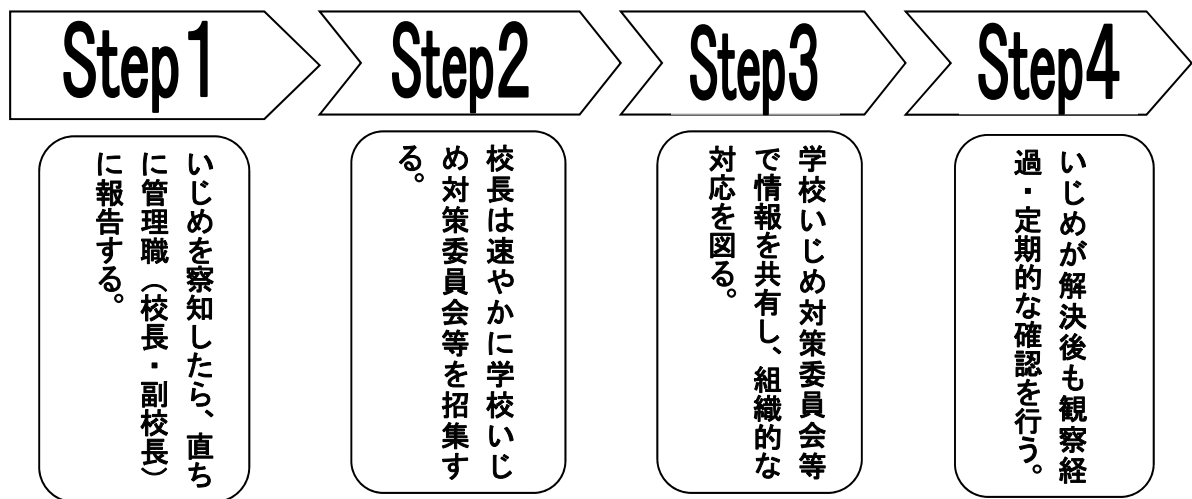
エ 先入観に惑わされたり、表面的な問題行動だけに目を奪われたりしないように、児童・生徒のサインを見逃さず、各方面からのいじめについての客観的な情報を得る。

4 いじめの発見から解決までの対応

(1) いじめの発見から組織的な対応の流れ

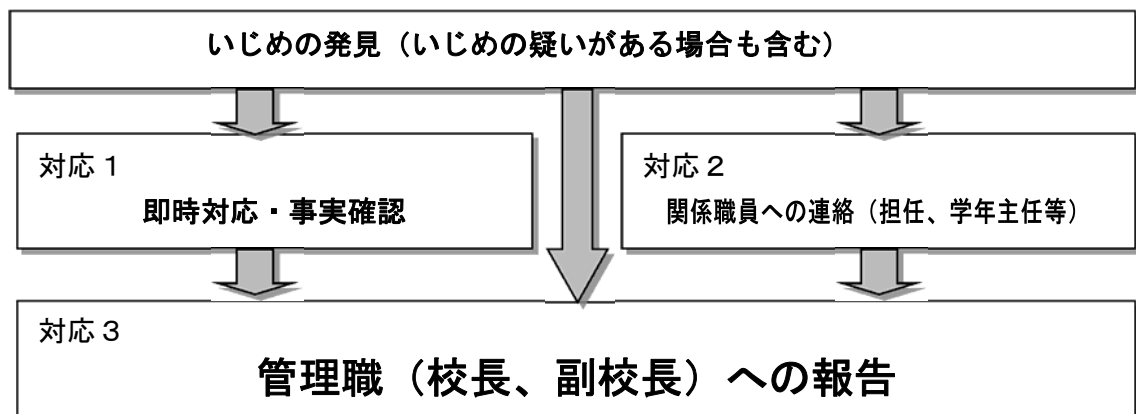
いじめを発見した場合（いじめの疑いがある場合も含む）、その状況等を適時適切に管理職（校長、副校長）に報告し、一人で抱え込まず、組織的な対応を図る必要がある。なお、報告を怠った場合は、いじめ防止対策推進法23条第1項（教職員や保護者などは、児童生徒からの相談を受け、いじめの事実があると思われるときは、児童生徒が在籍する学校へ通報その他の適切な措置をとる。）違反となり得ることに留意する。

また、情報共有とその後の的確な対応に資するよう、以下の①から④の取組を通して、常に、資料編（4）「いじめの記録（例）」を参考に、「いつ、どこで、だれが、なぜ、何を、どのように」といった視点から正確に記録するとともに、適切に保存する（本記録の保存年限は、いじめに係る児童・生徒が卒業、転学、退学等をしてから5年間）。



① Step1 いじめを察知したら、直ちに管理職（校長、副校長）に報告する。

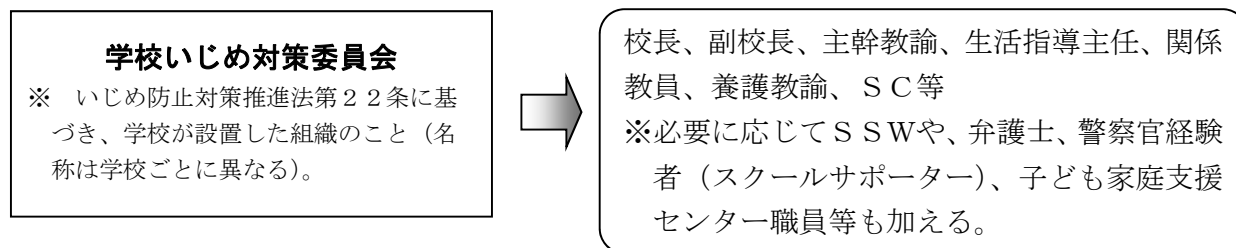
いじめ（いじめの疑いがある場合も含む）を発見したら、その状況を直ちに管理職（校長、副校長）に報告する。



※ いじめを発見した場合は、様々な対応が発生するが、その都度、管理職（校長、副校長）に確実に報告・相談する。

② Step 2 校長による学校いじめ対策委員会等の開催

校長は、いじめの発見後、速やかに学校いじめ防止基本方針に基づいて設置した学校いじめ対策委員会を開催する。メンバーについては、学校のスクールカウンセラー（ＳＣ）及びスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）等、いじめの実態に応じて必要な人選を行う等、状況に応じて柔軟な対応を図る。



③ Step 3 学校いじめ対策委員会等で情報を共有し、組織的な対応を図る。

いじめの事実に基づいて、どのように解決していくのかを協議し、対応方針等を立てる。その方針等については、全教職員によって共通理解を図り、組織的に問題解決を図る。

ア 情報の収集、整理

- ・ いじめの態様、いじめを受けている児童・生徒、いじめを行った児童・生徒、傍観したり周囲にいたりした児童・生徒の状況等の情報を速やかに収集し整理（学級・部活動等）

イ 対応方針

- ・ 緊急性の確認（自殺、不登校、脅迫、暴行等の危険度を確認）
- ・ 事案の検討を行い、解消に向けた具体的な計画を立てる。
- ・ 事情聴取や対応の際に留意すべきことを確認

ウ 役割分担

- ・ いじめを受けた児童・生徒からの聞き取り調査と支援担当（P10 参考資料1を参照）
- ・ いじめを行った児童・生徒からの聞き取り調査と指導担当（P10 参考資料2を参照）
- ・ 傍観したり周囲にいたりした児童・生徒と全体への指導担当（P11 参考資料3を参照）
- ・ 保護者への対応担当（P12 参考資料6を参照）

エ 深刻ないじめ問題及びいじめによる重大事態が発生したときの対応

【※「5 いじめの重大事態への対応」を参照】

- ・ 済美教育センター教育SATへの報告
- ・ 関係諸機関（杉並区内警察署、児童相談所、子ども家庭支援センター、医療機関等）への連絡

オ 教育委員会によるいじめを行った児童・生徒への出席停止措置について

いじめ防止対策推進法第26条では、区市町村教育委員会は、いじめを受けた児童・生徒が安心して教育を受けられるようにするために、学校教育法第35条第1項の規定に基づきいじめを行った児童・生徒の出席停止を命ずる等、速やかに講ずるものとする、とされている。

この措置については、いじめの状況等に応じて、学校と相談・協議の上、教育委員会が講ずることとなる。

【出席停止措置までの流れ】

○ 出席停止について

- ・ 学校教育法第35条に、区市町村の教育委員会に出席停止の権限が定められている。
- ・ 出席停止は懲戒ではなく、いじめを受けた児童・生徒の学習権を確保することが目的である。なお、安易な出席停止は避けなければならない。

○ 出席停止を実施する際の学校の留意点

- ・ いじめ防止対策推進法第23条第4項では、いじめを行った児童・生徒について、いじめを受けた児童・生徒が使用する教室以外の場所において学習を行わせる等のいじめを受けた児童・生徒が安心して教育を受けられるようにするために必要な措置を講ずる、とあり、まずは、個別学習を行うこと等が考えられる。
- ・ それでもやむを得ない場合は、杉並区教育委員会が出席停止措置を講じることになる。

④ Step 4 いじめが解決後も観察経過・定期的な確認を行う。

いじめはなくなっても、そこにいる人間関係の構成が変わらなければ、いじめが再発する可能性がある。いじめを繰り返さないためにも継続的にいじめを受けた児童・生徒、いじめを行った児童・生徒を観察していく必要がある。

ア 観察経過

- ・ いじめが解決した後、いじめを受けている児童・生徒、いじめを行った児童・生徒の人間関係を継続（少なくとも3カ月程度）して観察を続ける。

イ 定期的な確認

- ・ スクールカウンセラーを活用した、いじめを受けた児童・生徒への配慮・支援
- ・ 学校いじめ対策委員会等を活用した、いじめを受けた児童・生徒の情報共有等

【参考資料】

1 被害者（いじめを受けている児童・生徒）への対応

基本的な姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・いかなる理由があっても、徹底していじめを受けた児童・生徒の味方になる。 ・児童・生徒の表面的な変化から解決したと判断せず、支援を継続する。
事実の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・担任を中心に、児童・生徒にとって話しやすい教員が対応する。 ・いじめを受けた悔しさやつらさに耳を傾け、共感しながら事実を聞いていく。
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学校はいじめを行っている児童・生徒を絶対に許さないことや今後の指導の仕方について伝える。 ・自己肯定感の喪失を食い止めるよう、児童・生徒のよさや優れているところを認め、励ます。 ・いじめを行っている児童・生徒との今後の付き合い方など、行動の行方を具体的に指導する。 ・学校は安易に解決したと判断せず経過を見守ることを伝え、いつでも相談できるように学校の連絡先を教えておく。 ・「君にも原因がある」とか「がんばれ」などという指導や安易な励ましはしない。 ・いじめ問題が原因で、当該児童・生徒やその保護者が転学を希望する場合には、上記のような支援を具体的に行い、いじめ問題の解決に向けた環境整備や再発防止について理解を促す。
経過観察	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や生活ノートの交換、面談等を定期的に行い、不安や悩みの解消に努める。 ・自己肯定感を回復できるよう、授業、学級活動等での活躍の場や、友人との関係づくりを支援する。

2 加害者（いじめを行った児童・生徒）への対応

基本的な姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを行った背景を理解しつつ、行った行為に対しては毅然とした態度で指導する。 ・自分はどうすべきだったのか、これからどうしていくのかを内省させる。 ・心理的な孤立感・疎外感を与えることのないようにするなど、一定の教育的配慮のもとに指導を行う。
事実の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・対応する教員は中立の立場で事実確認を行う。 ・話しやすい話題から入りながら、うそやごまかしのない事実確認を行う。
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの非人間性やいじめが他者の人権を侵す行為であることに気付かせ、他者の痛みを理解できるよう根気強く継続して指導する。 ・いじめは決して許されないことをわからせ、責任転嫁等を許さない。 ・いじめに至った自分の心情やグループ内等での立場を振り返らせ、今後の行動の仕方について考えさせる。 ・不平不満、本人が満たされない気持ちなどをじっくり聴く。 ・いじめの状況に応じて、いじめを受けている児童・生徒を守るために、いじめを行った児童・生徒に対し出席停止の措置を講じる、警察等関係機関の協力を求めるなど、厳しい対応策を取ることも必要である。 ・出席停止の措置を講ずる場合には、その後の展望について指導プログラムを作成し、順序を追って適切な指導を行うとともに、教育委員会や保護者間で十分な共通理解、及び連携を図る。

経過観察	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や生活ノート、面談等を通して、教員との交流を続けながら成長を確認していく。 ・授業や学級活動等を通して、気持ちが向上するように向かわせ、よさを認めていく。
------	--

3 観衆、傍観していた児童・生徒への対応

基本的な姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、学級や学年等集団全体の問題として対応していく。 ・いじめの問題に、教員が児童・生徒と共に本気で取り組んでいる姿勢を示す。
事実の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの事実を告げることは、「チクリ」などというものではないこと、辛い立場にある人を救うことであり、人権と命を守る立派な行為であることを伝える。 ・いじめを告げたことによっていじめを受けるおそれがあると考えている児童・生徒を徹底して守り通すということを教職員が言葉と態度で示す。
支援	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲ではやし立てていた者や傍観していた者も、問題の関係者として事実を受け止めさせる。 ・いじめを受けている児童・生徒が、傍観していた児童・生徒の態度をどのように感じていたかを考えさせる。 ・これからどのように行動したらよいのかを考えさせる。 ・いじめの発生の誘引となった集団の行動規範や、言葉遣いなどについて振り返らせる。 ・いじめを許さない集団づくりに向けた話し合いを深める。
経過観察	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や学校行事等を通して、集団のもつ力をよい方向に向けていく。 ・いじめが解決したと思われる場合でも、十分な注意を怠らず、継続して指導を行っていく。

4 聞き取り調査の際の留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめを受けている児童・生徒や、傍観したり周囲にいたりした児童・生徒の事情聴取は、人目につかないような場所や時間帯に配慮して行う。 ・ 安心して話せるよう、その児童・生徒が話しやすい人や場所などに配慮する。 ・ 関係者からの情報に食い違いがないか、複数の教員で確認しながら聴取を進める。 ・ 情報提供者についての秘密を厳守し、報復などが起こらないように細心の注意を払う。
--

5 聞き取り調査の段階でははならないこと

<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめを受けている児童・生徒といじめを行っている児童・生徒から同じ場所で事情を聴くこと。 ・ 注意、叱責、説教だけで終わること。 ・ 双方の言い分を聞いて、すぐに仲直りを促すような指導をすること。 ・ 誠意ある謝罪を行わず、保護者等が納得しない状況を改善しないこと。 ・ 当事者同士の話し合いによる解決だけを促すような指導を行うこと。

6 保護者との連携

① いじめを受けた児童・生徒の保護者との連携

- ・ 事実が明らかになった時点で、速やかに家庭訪問を行い、学校で把握した事実を正確に伝える。
- ・ 学校として徹底して児童・生徒を守り、支援していくことを伝え、対応の方針を具体的に示す。
- ・ 対応経過をこまめに伝えるとともに、保護者から児童・生徒の様子等について情報提供を受ける。
- ・ いじめの全貌がわかるまで、相手の保護者への連絡を避けることを依頼する。
- ・ 対応を安易に終結せず、経過を観察する方針を伝え、理解と協力を得る。

② いじめを行った児童・生徒の保護者との連携

- ・ 事情聴取後、児童・生徒を送り届けながら家庭を訪問し、事実を経過とともに伝え、その場で児童・生徒に事実の確認をする。
- ・ いじめを受けた児童・生徒の状況も伝え、いじめの深刻さを認識してもらう。
- ・ 指導の経過と児童・生徒の変容の様子等を伝え、指導に対する理解を求める。
- ・ 誰もが、いじめを行う側にも、いじめを受ける側にもなりうることを伝え、学校には事実について指導し、よりよく成長させたいと考えていることを伝える。
- ・ 事実を認めなかったり、「うちの児童・生徒は首謀者ではない」と、学校の対応を批判したりする保護者に対しては、あらためて事実確認と学校の指導方針、教師の児童・生徒を思う信念を示し、理解を求める。

③ 保護者との日常的な連携

- ・ 年度当初から、通信や保護者会などで、いじめの問題に対する学校の認識や、対応方針・方法などを周知し、協力と情報提供等を依頼する。
- ・ いじめや暴力の問題の発生時には、いじめられる側、いじめる側にどのような支援や指導を行うのか、対応の方針等を明らかにしておく。

④ 保護者の不信をかう対応

- ・ 保護者からの訴えに対し、安易に「うちのクラスにはいじめはない」などと言う。
- ・ 「お子さんにも問題があるからいじめにあう」などの誤った発言をする。
- ・ 電話で簡単に対応する。
- ・ 保護者を非難する。
- ・ これまでの子育てについて批判する。

5 いじめの重大事態への対応

(1) いじめの重大事態の定義

いじめ防止対策推進法第28条第1項及びいじめの防止のための基本方針（平成25年10月文部科学省）では、いじめの重大事態を以下のとおり定義している。

【いじめの重大事態の定義】

法第28条 学校の設置者又はその設置する学校は、次に掲げる場合には、その事態（以下「重大事態」という。）に対処し、及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、当該学校の設置者又はその設置する学校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うものとする。

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害を生じた疑いがあると認めるとき。
 - 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。
- 第1号「生命、心身又は財産に重大な被害」とは、
例えば、
- ・ 児童生徒が自殺を企図した場合
 - ・ 身体に重大な傷害を負った場合
 - ・ 金品等に重大な被害を被った場合
 - ・ 精神性の疾患を発症した場合
- 第2号「相当の期間」とは、
不登校の定義（文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における定義）を踏まえ、年間30日を目安とする。また、連続して欠席しているような場合。
- 児童生徒や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申し立てがあった場合。

(2) 学校で重大事態が発生した場合

学校いじめ対策委員会において、重大事態であると判断した場合、又は重大事態に発展しそうな場合のほか、児童生徒や保護者からいじめにより重大な被害が生じたという申し立てがあったときは、速やかに済美教育センター教育SATに報告する。その際には、いじめの主旨と、学校で分かった事実を明確に伝える。

電話番号 済美教育センター教育SAT：03-3311-0023

(3) いじめの重大事態が発生した場合の対応

いじめの重大事態が発生した場合は、いじめ防止対策推進法（第28条第2項及び第3項）では、学校が調査主体の場合と杉並区教育委員会が調査主体の場合の2通りを想定している。

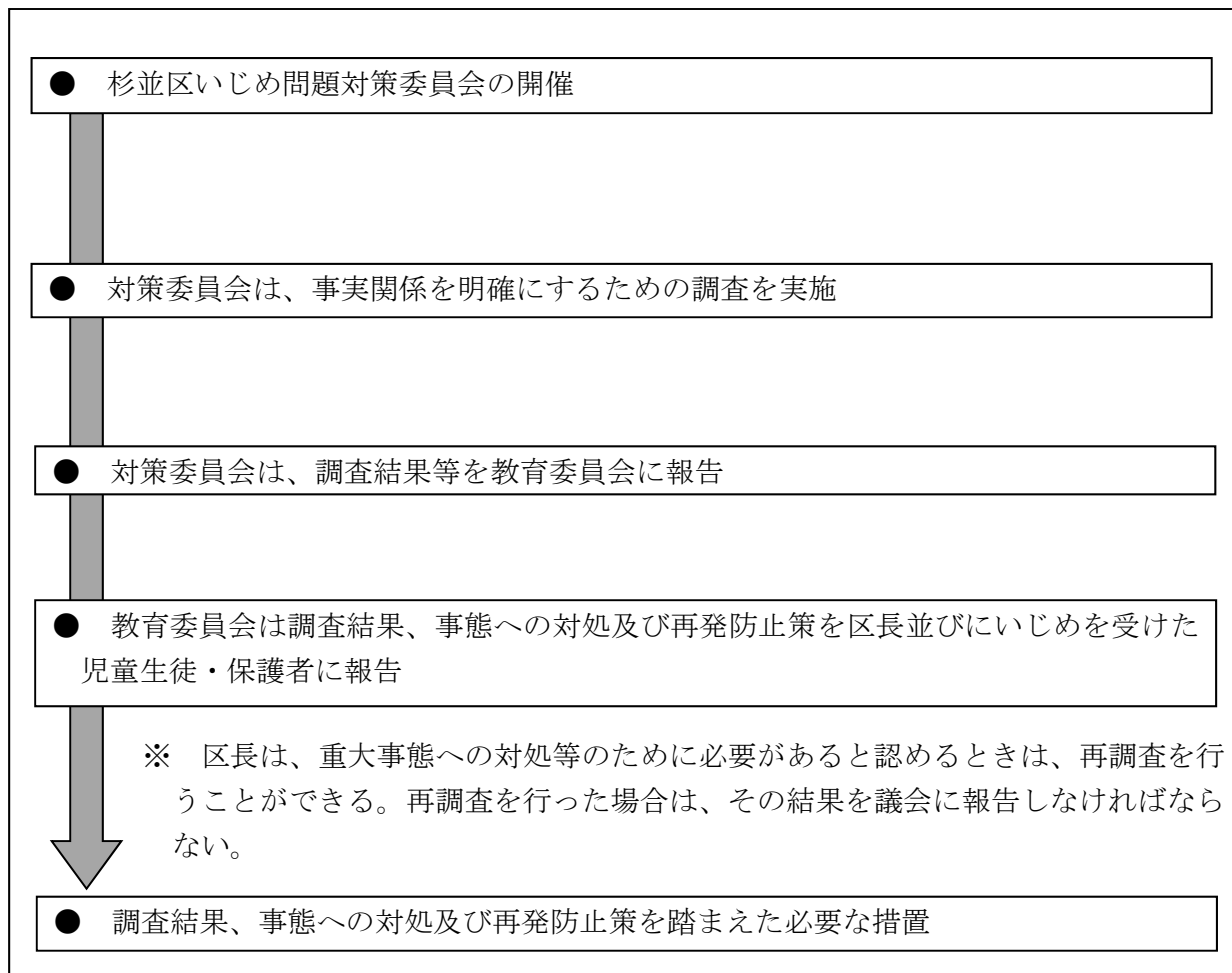
本区においては、重大事態が発生した場合、教育委員会の附属機関である「杉並区いじめ問題対策委員会」が事実関係の調査等を行う。

① 杉並区教育委員会が調査主体の場合

区教育委員会が調査主体の場合は、杉並区いじめ防止対策推進基本方針及びいじめ防止対策推進法第28条第1項の規定に基づき、杉並区立学校において同項に規定する重大事態が発生

した場合に行う調査組織として、「杉並区いじめ問題対策委員会条例」（※資料編（6）杉並区いじめ問題対策委員会条例を参照）に基づき、杉並区いじめ問題対策委員会を設置し、調査等を行う。

② 杉並区いじめ問題対策委員会のいじめ調査の流れ



資料編

(1) いじめ防止対策推進法（概要）

一 総則（第1条等）

- 1 「いじめ」を「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校（※）に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」と定義すること。
※小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（幼稚部を除く。）
- 2 いじめの防止等のための対策の基本理念、いじめの禁止、関係者の責務等を定めること。

二 いじめの防止基本方針等（第11条等）

- 1 国、地方公共団体及び学校の各主体による「いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針」の策定（※）について定めること。
※国及び学校は策定の義務、地方公共団体は策定の努力義務
- 2 地方公共団体は、関係機関等の連携を図るため、学校、教育委員会、児童相談所、法務局、警察その他の関係者により構成されるいじめ問題対策連絡協議会を置くことができること。

三 基本的施策・いじめの防止等に関する措置（第15条等）

- 1 学校の設置者及び学校が講ずべき基本的施策として①道徳教育等の充実、②早期発見のための措置、③相談体制の整備、④インターネットを通じて行われるいじめに対する対策の推進を定めるとともに、国及び地方公共団体が講ずべき基本的施策として⑤いじめの防止等の対策に従事する人材の確保等、⑥調査研究の推進、⑦啓発活動について定めること。
- 2 学校は、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、複数の教職員、心理、福祉等の専門家その他の関係者により構成される組織を置くこと。
- 3 個別のいじめに対して学校が講ずべき措置として①いじめの事実確認、②いじめを受けた児童生徒又はその保護者に対する支援、③いじめを行った児童生徒に対する指導又はその保護者に対する助言について定めるとともに、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときの所轄警察署との連携について定めること。
- 4 懲戒、出席停止制度の適切な運用等その他いじめの防止等に関する措置を定めること。

四 重大事態への対処（第28条等）

- 1 学校の設置者又はその設置する学校は、重大事態に対処し、及び同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、適切な方法により事実関係を明確にするための調査を行うものとする。
- 2 学校の設置者又はその設置する学校は、1の調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童生徒及びその保護者に対し、必要な情報を適切に提供するものとする。
- 3 地方公共団体の長等（※）に対する重大事態が発生した旨の報告、地方公共団体の長等による1の調査の再調査、再調査の結果を踏まえて措置を講ずること等について定めること。
※公立学校は地方公共団体の長、国立学校は文部科学大臣、私立学校は所轄庁である都道府県知事

五 雑則

学校評価における留意事項及び高等専門学校における措置に関する規定を設けること。

（一から五までのいずれも、公布日から起算して三月を経過した日から施行）

(2) 発達段階によるいじめの特徴

	いじめの特徴	指導上の留意点
小学校 低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ちよっかいを出すような「たたく」「ける」「悪口を言う」「人の嫌なことをする」などが多い。 ○自分の感情を上手に表現できないことからいじめが発生することが多い。 ○仲間を求めたり、欲求不満を伴ったりしたものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師とのつながりが強いことから、教師が適切な指導を行うことによって、いじめられている児童が大きな打撃を受けることを未然に防止できる可能性が高い。 ○学級全体への指導とともにいじめる児童一人一人へのきめ細かな指導が大切になってくる。
小学校 中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年のいじめの特徴に加えて「仲間はずれ」「無視」などが加わり、心理的ないじめが目立つようになる。 ○同性の小集団になじめなかったり、集団とは異なる雰囲気をもった児童を排斥したりする等の傾向がある。 ○男女によってその表れ方も異なる場合がある。小集団による嫉妬心や支配欲を伴う事例が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師や周囲の児童にはいじめかどうか見分けにくいものが増えてくる。児童の小集団の動向や日常の交友関係に十分目を配り、いろいろな仲間と集団を作れるように支援することが大切である。 ○人間関係について、教職員全体で見守ったりすることが重要な時期でもある。
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○「しつこく悪口を言う」「仲間はずれにする」「無視する」など、心理的ないじめが多くなる。 ○いじめが実際に起こっても「いじめがある」と認める割合が急激に減少するといわれる。 ○仲間集団が固定化され、その緊密さや対抗意識が激しくなり、それが基になりいじめに発展することが多い。 ○「リーダー格」の児童が現れて、小集団での支配欲がいじめに発展することもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○男女の特性の違いに十分配慮する必要がある。女子には、不安定な思春期の心理特性が早く現れる傾向があり、学級内での集団の形成や個別の児童の行動や心理に目を配りながら指導することが求められる。 ○大集団によるいじめが発生する可能性があるため、学級内外の小集団の関係の変化に留意し、学校全体での情報交換や共通理解を図っていくことが必要である。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○小集団内で仲間同士の悪口を言うなどから生じるいじめ、仲間内での優位性を誇示しようとするいじめ、仲間の結束を図るためのいじめなどが多く見られる。 ○生徒の集団形成が多様化・拡大化することから、大集団における嫌悪感を伴ったいじめや反発・報復感を伴ったいじめが目立つようになる。さらに愉悦感を伴ったいじめもしばしば見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大集団によるいじめはいじめている生徒も周囲の生徒も共通して罪悪感が乏しい傾向がある。 ○中心となっている生徒に対する継続的個別的な対応を行うとともに周囲にいる生徒を含む集団に対して、いじめの不当性を徹底して指導する必要がある。 ○非行を伴う場合は、学校全体でいじめられた生徒を守る体制を作り、いじめている生徒に対しては、いじめ、非行の背景にも着目して学校全体で指導するとともに関係機関との連携も必要になる。

(3) いじめの発見チェックリスト

登校時から	<input type="checkbox"/> 朝早く登校したり、遅く登校したりする。 <input type="checkbox"/> いつも一人で登下校したり、友達と登下校していても表情が暗かったりする。 <input type="checkbox"/> 自分からあいさつしようと思わず、友達からのあいさつや言葉かけもない。 <input type="checkbox"/> 元気がなく、顔色がすぐれない。 <input type="checkbox"/> 理由のはっきりしない遅刻・早退を繰り返し、欠席も目立つ。
授業・学級活動等の時間	<input type="checkbox"/> 授業が始まってから、一人遅れて教室に入ってくる。 <input type="checkbox"/> 体の不調を訴え、たびたび保健室やトイレに行く。 <input type="checkbox"/> 以前に比べて、声が小さい。ぼんやりしていることが多い。 <input type="checkbox"/> うつむきかげんで発言しなくなる。 <input type="checkbox"/> 学習意欲がなくなり、成績が急に下がり始める。 <input type="checkbox"/> 配布したプリントなどが届いていない。 <input type="checkbox"/> グループ活動の際、一人だけ外れている。 <input type="checkbox"/> ふざけた雰囲気の中で、係や委員等を選ばれる。 <input type="checkbox"/> 教科書・ノート等が紛失したり、落書きされたりする。 <input type="checkbox"/> 教職員がほめると、周りの子があざけたり、しらけたりする。 <input type="checkbox"/> 何人かの視線が特定の児童・生徒に集中する。目配せなどのやりとりがある。 <input type="checkbox"/> 発言するとやじられたり、笑われたり、冷やかしの声があがったりする。 <input type="checkbox"/> 特定の児童・生徒の作品が傷つけられていたり、投げつけられていたりする。 <input type="checkbox"/> 特定の児童・生徒が指名されるとニヤニヤする者や持ち物に触れることを嫌がる者がいる。
休み時間	<input type="checkbox"/> 仲のよかったグループから外され、教室や学校図書館等で一人ポツンとしている。 <input type="checkbox"/> 一人で廊下や職員室付近をうろうろしたり、用もなく職員室で過ごしたりすることが多い。 <input type="checkbox"/> 教職員に頻繁に接触したり、話しかけてきたりする。 <input type="checkbox"/> 保健室に行く回数が多くなり、教室に戻りたがらない。 <input type="checkbox"/> 友達と過ごしているが表情は暗く、オドオドした様子がみられる。 <input type="checkbox"/> 遊びの中で笑いものにされたり、からかわれたり、命令されたりしている。 <input type="checkbox"/> 遊びの中で、いつも嫌な役をやらされている。(道具の後始末、他) <input type="checkbox"/> 周りの友達に必要以上の気遣いをしている。 <input type="checkbox"/> 特定の児童・生徒のそばを避けて通るなどの嫌がらせが見られる。
下校時	<input type="checkbox"/> 下校が早い。あるいは、用がないのにいつまでも学校に残っている。 <input type="checkbox"/> 玄関や校門付近で、不安そうな顔をしてオドオドしている。 <input type="checkbox"/> いつも友達のを荷物を持たされている。 <input type="checkbox"/> 靴や傘等が紛失する。
その他	<input type="checkbox"/> 給食時、机が微妙に離され、一人寂しく食べている。 <input type="checkbox"/> 給食のメニューによって、配膳の量を極端に多くされたり少なくされたりする。 <input type="checkbox"/> 清掃時、いつもみんなが嫌がる仕事や場所が割り当てられている。 <input type="checkbox"/> 清掃時、他の児童・生徒から一人離れて掃除や後片付けをしている。 <input type="checkbox"/> 清掃時、特定の児童・生徒の椅子や机が運ばれなかったり、放置されたりする。 <input type="checkbox"/> 部活動をよく休むようになったり、急にやめたいと言いつたりする。 <input type="checkbox"/> 集団活動や学校行事に参加することを渋る。 <input type="checkbox"/> 理由のはっきりしない衣服の汚れやケガなどが見られ、隠そうとする。 <input type="checkbox"/> 日記やノート等に、不安や悩みを感じる表現や投げ遣りな記述が見られる。 <input type="checkbox"/> 異なる通学経路から登下校する。 <input type="checkbox"/> 刃物など、危険なものを所持している。

(4) いじめの指導記録(例)

いじめ指導記録(例) (「いじめを受けた児童・生徒」「いじめを行った児童・生徒」への指導を想定して)

作成日		作成者(指導を行った者)	
平成 年 月 日()		名前	分掌・役職等(※1)
指導した児童・生徒名		年 組	
いじめの状況	指導した児童・生徒の立場について		
	() いじめを受けている		
	() いじめを行っている		
	いじめの様子について、以下を簡潔に箇条書きにする		
	① いじめの態様(※2)		
	② 当該児童・生徒の状況		
	③ 周囲の児童・生徒との関わり		
④ 保護者の状況			
⑤ いじめの発端や状況 (人間関係等は図示でもよい)	【いつ、誰が、誰に対して、どのようなこと(どの程度)を行ったか】		
指導の経緯			
月 日	いじめを受けた児童・生徒に対して	いじめを行った児童・生徒に対して	
	(裏面に続く)		

※1 当該児童・生徒への組織的対応を行う上での位置付け

例) 学級担任、学年主任、生活指導主任、部活動顧問、養護教諭、スクールカウンセラー、等

※2 冷やかす、からかい、悪口、脅し、仲間外れ、無視、軽くぶつかる、遊びのつもりで叩く、蹴る

ひどくぶつかる、叩く、蹴る、金品の強要力、金品を隠す、盗む、壊す、捨てる、望まないことや恥ずかしいこと、危険なことの強要、等細かく表記する。

◎ 本記録及び本記録の根拠資料等は、5年間(指導要録【指導の記録】と同様)保存すること。

(5) いじめアンケート例 (小学校用)

〇〇小学校のみなさんが、いつも仲よく、そして楽しく学校生活を送ってほしいと保護者や先生方は願っています。

しかし、実際には「いじめ」や「いやがらせ」を受けて、つらく苦しい思いをしているお友だちがいるかもしれません。また、あなた自身がそのような思いをしているかもしれません。もし、そのようなことがあるとしたら、先生たちは少しでも早くそのことに気づき、助けてあげたいと心から思っています。

このアンケートは、そのために行うものです。教えてくれた人が、いやな思いをしないように十分気を付けます。知っていることをぜひ教えてください。

※いじめとは、「暴力や言葉などで、相手にいたい思いやつらい思いをさせること」です。

1 あなたはここ最近 (〇月から〇月までの3ヶ月の間) に、

①「いじめ」られた。[] ②「いじめ」を見た。[] ③「いじめ」をした。

[]

④「いじめ」があると聞いた。[] ⑤ ①から④にはあてはまらない。[]

※ []に〇を記入してください。

2 上の質問で、①～④と答えた人に聞きます。

(1) そのいじめはいつありましたか? (例: 〇月〇日昼休み)

--

(2) それはどこでありましたか? (例: 〇年〇組の教室)

--

(3) いじめの内容は? (内容については知っていることすべてを書いてください。かかわった人物名もなるべく書いてください。)

--

(4) 今の様子はどうですか? [①解決した ②続いている ③ますますひどくなっている]

番号	様子を教えてください。
----	-------------

(5) あなたは、そのいじめについて何をしましたか?

[①止めようとした ②相談を受けた(相談した) ③何もしない ④いじめに加わった]

番号	①②④について具体的に内容を書いてください。
----	------------------------

年 組 番 名前

男・女 (※ここは書かなくてもよいです)

学校の状況に応じてご判断ください。

(5) いじめアンケート例 (中学校用)

学校生活を安心して楽しく過ごし、互いの良いところを磨きあい、仲間と協力しながら成長していくことは、保護者や先生方の願いです。

しかし、現実的には、「いじめ」や「いやがらせ」により、つらく苦しい思いをしている生徒がいるかもしれません。このようなことを解決していくためには、できるだけ早く発見し、解決していくことが大切です。

先生たちは、いじめられている生徒を絶対に守ります。みなさんも、ぜひ協力してください。また、情報を教えてくれた生徒への配慮は慎重に行います。

* いじめとは、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものです。なお、起こった場所は学校の内外を問いません。

1 あなたはここ最近 (〇月から〇月までの3ヶ月の間) に、

①「いじめ」られた。 [] ②「いじめ」を見た。 [] ③「いじめ」をした。 []

④「いじめ」があると聞いた。 [] ⑤ ①から④にはあてはまらない。 []

※ []に〇を記入してください。

2 上の質問で、①～④と答えた人に聞きます。

(1) そのいじめはいつありましたか? (例: 〇月〇日昼休み)

--

(2) それはどこでありましたか? (例: 〇年〇組の教室)

--

(3) いじめの内容は? (関わりのある人物の名前をなるべく書いてください。内容については知っていることすべてを書いてください。)

--

(4) 今の様子はどうですか? [①解決した ②続いている ③ますますひどくなっている]

番号	様子を教えてください。
----	-------------

(5) あなたは、そのいじめについて何をしましたか?

[①止めようとした ②相談を受けた(相談した) ③何もしない ④いじめに加わった]

番号	具体的な内容を書いてください。
----	-----------------

年 組 番 名前

男・女 (※ここは書かなくてもよいです)

学校の状況に応じてご判断ください。

(6) 杉並区いじめ問題対策委員会条例

(設置)

第1条 いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第14条第3項の規定に基づき、杉並区教育委員会（以下「教育委員会」という。）の附属機関として、杉並区いじめ問題対策委員会（以下「対策委員会」という。）を置く。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) いじめ 児童生徒（区立学校に在籍する児童又は生徒をいう。以下同じ。）に対して、当該児童生徒が在籍する区立学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であつて、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。
- (2) 区立学校 杉並区立小学校、中学校及び特別支援学校をいう。

(所掌事項)

第3条 対策委員会は、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策に関して必要な事項の調査審議を行うものとする。

- 2 対策委員会は、区立学校において発生した法第28条第1項に規定する重大事態に係る事実関係を明確にするための調査その他の当該重大事態への対処及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に関して必要な事項の調査審議を行うものとする。
- 3 対策委員会は、前2項に規定する事項に関し、教育委員会に意見を述べることができる。

(組織)

第4条 対策委員会は、法律、医療、心理、福祉等の分野に関し優れた識見を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する委員7人以内をもって組織する。

- 2 委員の任期は、2年とし、再任されることを妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 対策委員会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、対策委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 対策委員会は、会長が招集する。

- 2 対策委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 対策委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 対策委員会の会議は、公開とする。ただし、対策委員会の議決があつたときは、非公開とすることができる。

(委員以外の者の出席等)

第7条 対策委員会は、調査審議のため必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させて意見を聴き、又は委員以外の者から必要な資料の提出を求めることができる。

(委員の除斥)

第8条 委員は、対策委員会が会議の中立性及び公正性が損なわれるおそれがあると認めるときは、出席することができない。

(委員による調査手続)

第9条 対策委員会は、必要があると認めるときは、その指名する委員に、第3条第2項に規定する調査をさせることができる。

(守秘義務)

第10条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(委任)

第11条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則 (略)

(7) 主な相談窓口・関係機関一覧

○関係諸機関との連携

教育SAT (済美教育センター)	指導主事・スクールソーシャルワーカー・管理職経験者・臨床心理士で構成しています。いじめ問題に学校と共に取り組み、子ども・保護者への支援を行います。
区教育相談 (特別支援教育課)	指導主事・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・臨床心理士で構成しています。子どもに対するカウンセリング、保護者の方からの個別相談を行います。
保護司、民生児童委員	いじめや生活指導上の諸問題は、学校の内外を問わず発生します。地域で見守ってくださる方々とは、地域における子どもの様子について日常の情報連携に努め、問題解決に当たって行動連携を推進してください。
警察署、少年センター、児童相談所、子ども家庭支援センター、弁護士(学校法律相談)	<p>子どもの生命または身体の安全が脅かされているような場合、直ちに関係諸機関に通報することが必要です。</p> <p>また、犯罪行為として取り扱われるべきと認められるときは、いじめられている子どもを徹底して守り通すという観点から、警察へ早期に相談し、連携を図ることが重要です。さらに、いじめの解決に向け、児童相談所等との連携についても積極的な検討が必要です。</p> <p>学校だけでは解決できない困難事例の対応のため、学校と関係諸機関(学校法律相談含)等が一体となった行動連携を図り、諸問題に対し、各機関の専門性を生かした多様な指導や支援を組織的に行います。</p>

○主な相談窓口・関係機関一覧

主な相談窓口・専門機関等	電話番号	所在地等
すぎなみ いじめ電話レスキュー	080-8825-0119 0120-949-466	済美教育センター
特別支援教育課電話相談	03-3317-1190	済美教育センター 内 特別支援教育課
教育SAT (スクールアシストチーム)	03-3311-0023	済美教育センター
SSW (スクールソーシャルワーカー)	03-3311-1921	済美教育センター 内 特別支援教育課
ゆうライン	03-5929-1901	杉並区子ども家庭支援センター
東京都いじめ相談ホットライン	0120-53-8288	東京都教育相談センター
東京子供ネット	0120-874-374	東京都児童相談センター
24時間子供SOSダイヤル	0120-0-78310	文部科学省
ヤング・テレホン・コーナー	03-3580-4970	警視庁少年相談室
サイバー犯罪相談窓口	03-3431-8109	警視庁サイバー犯罪対策課
チャイルドライン	0120-99-7777	(18歳までの子どもが対象)